

紙の巻

現在浮舟のヌリッパ

か有り子すけろしく 巻の紙

あややかな藍色の紙が よそ水でいの

思いきゝて巻うこととしは

えうむとえうむ よしこよど行ころと思つた

ヌリッパの巻を

ヌリッパの中は本[?]で かかとをふんでま

ふいと巻つていよ

さうそく けいこすの 申し分ない

左に 今度甲斐のヌリッパも知分するに

しやが巻い ちう少し便甲しうる巻と

思つていよ

ヌリッパは中はつめものかしてあり

箱は入つていよ

その箱が大分厚かこボールに入つていよ

そのが之ボールの中は大分あつた本が四冊あり

その向をうめよふうと店舎がだうしていよ

紙のすうまうが どんとあつた

命白はもろのびの巻だ

朝野少に事つくぬに
へるハノ

ゴニを

やれた収集庫にフ
ゴニ集積所へ行く

処理する
燃料が便少

これじ加温後他
ふせごと

ふやし

災害の多いころ
京田のひと

といわれ
たれども

一フ
と来

そ
る

2021
8/28